

平成 22 年度の地域移行促進部会の取組み

杉並区地域自立支援協議会

平成 22 年 6 月 15 日

1、これまでの検討経過

地域移行促進部会は「入所施設、病院からの地域移行にあたり、安心して安定した生活ができる地域の基盤整備を推進していく」ことを部会の目標として検討を進めている。

21,22 年度は「障害者の地域医療」について取り上げていくこととなった。これまで障害当事者や支援者から「障害者を（ていねいに）診察してくれる医療機関を知りたい」「不安になり待合時間や待合室で待てない」などの受診時の課題が挙げられていた。

このため、地域移行促進部会の中で、主に知的障害、精神障害の 2 つのワーキングチームに分かれて、地域での治療を継続する上での課題や解決策について意見交換を行った。その結果、今回は知的、精神障害を中心に杉並区の障害当事者や支援者から地域医療について感じていることを目に見える形で出していくためにアンケートを実施する、自己の健康情報や医師からの指示をうまく把握するための補助としてのツールの必要性や、継続して服薬していくための工夫が必要である、とされた。

2、21 年度からの活動報告

第 2 回部会以降は、上記の 2 つの活動方針を受けて の活動を行ってきた。

「障害がある方の地域医療についてのアンケート報告」（別紙 1）

「ノート作成プロジェクトチーム」の検討状況

3、第 1 回地域移行促進部会（6/10）の報告

（1）障害ある方の地域医療についてのアンケートにもとづく意見交換会について

開催の目的...昨年行った「障害ある方の地域医療についてのアンケート」のまとめとして、以下の 3 点があった。

- ・ 医療機関の情報について...適切な医療機関情報の提供の工夫が期待され、さらに障害の理解を含めた医療関係者との連携が必要
- ・ 当事者の健康情報の伝達について...受診時の上手な伝え方と、医師と家族が診療内容を共有できるツールを求める
- ・ 人的支援の取り組みについて...通院や服薬管理などで困難の割合が多くあり、人的支援の必要性がある。

同時に、アンケートでは、本人と支援者に受け取り方のかい離がある、精神障害と知的障害の特性の違いから異なる課題が現れた。

そこで、上記 3 項目を進展させるにあたり、課題と今後の方向を具体的にすべくさらに突っ込んだ意見交換を行うこととした。

実施方法

- ・精神障害分野と知的障害分野のそれぞれで、意見交換会を持つ。その上で両方が一緒に意見交換する場を持つ。
- ・出席対象者は、本人、家族、医療関係者、日中活動やグループホームを含む生活支援者

開催時期

7-9月を予定

意見交換のまとめの活用方向

部会から、地域医療の進展を要望することとして、協議会本会に提案し、杉並区としての取組が開始されるよう発信する。

(2) ノートプロジェクトチーム報告 (別紙2)

<部会からの新たな意見>

退院前後、地域移行前後の方を中心に、モデル実施。

(チームのピアメンバーにも協力いただく)

その他の意見

- ・支援者と一緒に使っていけるもの ・いずれは障害者お一人でも使いやすいもの
- ・初めて行く病院などで役立つもの ・日常的な管理(服薬など)に使えるもの

上記意見を参考に7月13日のプロジェクトチームで、モデル実施について詰める。